

池田の商品や 催し構想練る

池田町と連携協定を結ぶ東京都立芝商業高校(港区)の2年生14人が、町内で夏合宿を行っている。町の特産を使った商品やゆるキャラなどを作るのが目的で、24日は町内を散策。田舎の自然や文化に触れてアイデアを膨らませた。

町全体を学びの場として提供する「いけだキャンパス」事業の一環で、町は昨年末、同校と最初の協定を締結。第1弾として、特産を利用した商品や催し、ゆるキャラを考案する。

生徒は23日から3日間、町内に滞在する。この日は4班に分かれて、かずら橋(土合血尾)や能面美術館(志津原)など10カ所を徒歩で巡り、写真に収め

都内高校生ぐるり散策

秋ごろ成果発表予定

ながら散策。豊かな自然と歓迎してくれる住民が気に入った様子で、渋川楓さん(16)らは「東京にはないものばかり。良いアイデアが浮かびそう」などと話した。



池田町の自然などに触れ、アイデアを膨らませる生徒たち＝池田町志津原で

この後、町民らに取材もして構想を練った。町によると、秋ごろに東京都内で成果発表する予定で、採用された案は実現させるとしている。

(玉田能成)